

2023年度 授業改善推進プラン(全体計画)

| 学校経営方針(学力向上に関わる要点) |
|--|
| <p>○基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得とそれらの活用を重視するとともに、児童のコミュニケーション能力を高め、確かな学力と豊かな人間関係をはぐくむ教育活動を推進する。また、ICT教育や図書館を活用し、質の高い授業を実践する。</p> <p>○教科等の特性に応じた言語活動や課題解決的な学習を通して、児童の「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」をバランスよく育む教育活動を推進する。</p> <p>○児童一人一人のニーズに対応した個に応じた指導を行う。</p> <p>○自然豊かな地域の特色を生かし、自ら課題を見つけ、適切に判断し、課題を解決する体験学習を計画的に行い、保護者、地域の方々と協力し、地域協働の学校づくりを推進する。</p> |

| 授業改善の重点 |
|--|
| <p>○各教科において、ねらいを児童自身が作るなどしてより明確にした授業の実践やナビマ、東京ベーシック・ドリルなどを活用した反復学習により、学習意欲の向上や基礎的・基本的な知識・技能の習得を目指していく。</p> <p>○導入や発問の工夫をすることで、児童が主体的に既習事項を活用して課題解決に取り組むことができるようにする。</p> <p>○児童一人一人の考えを大切にしたり、一時間の学習の中に既習事項を振り返り自ら考える時間を設けたりする。</p> <p>○三校連携で授業参観、分科会による情報交換を行い、地域の実態に応じた課題の共通理解、また学力向上のための共通手立てを講じていく。(6年生の春休み2校共通課題の提出など)</p> |

| 各教科の指導の重点 | 国語科 | 音楽科 | 総合的な学習の時間の指導の重点 | 特別の教科 道徳の指導の重点 |
|--|--|--|---|--|
| | <p>○基本的な話の聞き方を身に付け、大事なことを落とさずに聞くことができるようにする。 また、話型を示すことで話し方の定着を図る。 ○文章を正確に読み取るとともに、語彙力を増やし、自分の考えを書くことができるようにする。 ○漢字練習や小テストを継続的にを行い、正確な文字表記の定着を図る。 ○対話的な学びの場として、ペアやグループでの話し合い活動を取り入れ、自分の考えをもつことができるようにする。 ○図書館を有効に活用するとともに、読み聞かせや朝読書を通して、広く読書に親しむことができるようにする。</p> | <p>○音楽集会や保護者会発表などを通して、人前で演奏する場を設定し、表現力を高める。 ○音楽の基礎・基本の定着を図るために楽典や聴音の小テストを行う。 ○歌う楽しさや喜びを感じることができるようにする。</p> | <p>○地域の人材や施設を活用し、体験的な学習や課題解決学習の充実を図ることで、自己解決能力・自己実現能力を育成する。</p> | <p>○全校として「思いやり」の育成を重点とする。人権教育の研究を生かし、さらに深めながら「礼儀」「友情・信頼」「相互理解・寛容」等を重点的に指導する。道徳的価値について多角的、多面的に話し合い自己の生き方を振り返る学習を目指す。</p> |
| | 社会科 | 図工科 | 特別活動の指導の重点 | 外国語活動(3・4年)の指導の重点 |
| | <p>○グラフや表を読み取る技能を身に付け、知識と結びつけたり、理解を深めたりできるようにする。 ○新聞作りやパンフレット作りなどの具体的な活動を通して、考えを自分の言葉でまとめることができるようにする。 ○地域の特色を生かしながら、学習の計画を立て、学びを深めることができるようにする。</p> | <p>○学年の発達段階に応じてさまざまな題材を設置し材料や道具を経験させる。高学年では材料や道具を児童自身が自分のイメージに合わせて選べるようにする。 ○日常的によさが認め合える鑑賞活動をする。</p> | | |
| | 算数科 | 家庭科 | <p>○学校生活や学級生活の充実や向上を目指した活動を展開することで自主的・主体的な実践態度を育成する。</p> | <p>○ねらいを明確にした活動を取り入れ、楽しみながら英語に親しんだり、英語のスキルを身に付けたりできるように、授業展開を工夫する。 ○めあてを達成できる学習活動を行うために、デジタル教材の有効な活用方法を研究し、教具を検討し、指導法の研修を計画的に行う。</p> |
| | <p>○基礎的な内容の指導、活用する力の指導など単元計画に位置付け、基礎的な内容の定着を図るとともに思考力・表現力をはぐくむ。 ○東京ベーシックドリルの診断テストを活用し、習熟の状況や到達度を確認しながら授業を進め、学習内容の定着を図る。 ○準備テストやワークテスト、東京ベーシックドリルなどを活用して児童の実態をつかみ、個に応じた指導に活かす。 ○毎時間始めの3～5分既習事項の復習を行う。</p> | <p>○自立の基礎として必要な衣食住や家族の生活に関する基礎的な技能を習得させる。また、地球環境とのつながりを考え、生活の中に生かす。 ○用具の安全な使い方や技能の習得に十分時間を確保する。</p> | | |
| | 理科 | 体育科 | | |
| | <p>○単元の導入やまとめで映像資料を積極的に活用することで、児童の興味・関心を高めたり、学習内容を定着させたりしていく。 ○観察の観点を明確にしたり、実験の見通しをもたせたりすることで、観察・実験の技能を高めるようにする。</p> | <p>○基本的な体力向上をめざし、毎時間導入時に持久走、鬼遊び、縄跳びに取り組む。 ○学習カードを活用し、児童に単元のめあてをもたせ、振り返りを行い思考力・判断力を向上させる。 ○少人数でのグループ活動などを通し「見合う」時間を充実させ、かかわりあいを多くさせる。 ○各学年の年間授業計画を縦断的に作成し、教材研究や教材の共有を学校全体で行う。</p> | | |
| 生活科 | 外国語科(5・6年生) | | | |
| <p>○課題設定、解決方法、学んだことなど、視点を明確にして振り返り、より充実させる。 ○地域の特色を生かした「小山田学習」を充実させ地域の人材を大切に活用をする。 ○誰がどの学年を担当しても同じ学習内容になるよう、計画を明確に立て記録を残す。 ○「育てたい力」「ねらい」を明確にして、活動のみに終わらせない取り組みとする。</p> | <p>○Unitの目標表現を歌やチャンツなどを用いて繰り返し発音し慣れ親しませる。 ○英語パフォーマンステストを実施し、児童の目標表現・語句を定着させる。 ○音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かったり、書き写したりできるように活動を工夫する。</p> | | | |

| 本校の授業改善に向けて | ICT機器の活用 | 見通しをもたせる導入 | 価値ある対話の共有 |
|-------------|---|---|---|
| | <p>・各段落のキーセンテンスを見つけ、それを範囲指定することで「短冊型」のカードにできるという学習者用デジタル教科書の機能を活用することで、何回も教材文を読み、必要でない言葉や文章を削除したり、追加したりしながら考えを修正して読むことの力を高めていく。 ・文章が長くなることで、段落相互の関係性が複雑になってしまうために、事実と説明の関係性等の把握が困難な子どもたちにとっても、本文や挿絵の関係性を示して理解を補完したり、みんなで意見を出し合って練り上げていく学習活動の中で、学習者用デジタル教科書の画面を示して共有したりすることで、徐々に考えを深めていくようにする。</p> | <p>・授業の始めに学習活動の見通しをもたせることで、主体的な学びを促すとともに、振り返りの場面における視点を明確にする。 ・授業の始めに追究・解決への見通しを持たせることが、「主体的な学び」への原動力となるとともに、学習内容の定着につながる。 ・一度に多くの情報を与えるのではなく、児童が必要と感じた情報を小出しに与えるといった導入の工夫を取り入れる。 ・「目標を理解すること」「めあて(課題)を設定する」「予想や仮説を立てること」「課題解決に向けた解決法を考えること」「(時間配分や準備物等を含め)学習計画を立てること」「単元のはじめに行うオリエンテーション」など、各教科等の特質に応じた導入の工夫を行う。</p> | <p>・まずは自分の考えをもち、友達との対話を基に、よりよい考えをまとめられるよう指導の充実を図る。 ・教師の選択的な切り返しにより、話し合いを深め、多面的・多角的に思考させていく。 ・話し合い後、黒板の友達の考えにネームプレートを貼りに行かせることで、自分の考えとの違いを対比させ意識しながら聞かせる。 ・話し合いや関連付けをもとに、学級全体で気付きを共有する。その上で、より主題に沿った視点をもって意見を書かせる。 ・学習した内容は、各時間模造紙にまとめ、教室内に掲示する。児童は、本文、これまでのワークシート、掲示物をヒントにしながらか自分の考えをまとめさせる</p> |